

## ワークショップ（案）について

## 1 第2回部会における議論

## 第2回部会資料記載内容

- ・環境基本計画の策定にあたり、自らの生活により身近で具体的な意見を、他人の意見も聞きながら考えていただくため、ワークショップを実施。
- ・ワークショップ実施後、次期計画への掲載の必要性を検討する。

## 部会意見

- ・ワークショップは重要。当事者意識を持って、考えてもらうきっかけの場になる。
- ・大学生をまきこみながら開催する方が良い。大学生には、参加だけでなく、企画を考えてもらったり、ファシリテーターなど役割を与える方が良い。
- ・可能かどうか分からないが、海外の人を入れた多言語開催も良いのでは。

## 2 ワークショップの枠組み（案）

## (1) テーマ（仮）

## 『あなたらしく考え、みんなでつくる環境の姿』～私たちと京都の環境～

ウェルビーイングの観点からの「問い」を設定し、①自分はどう思うか、そして、②どうすればみんなでそれをさらに良くしていけるのかを考えることで、③環境や取組とどのように関わることで自分やみんなの満足度が高まっていくかをグループで他の参加者の意見も聞きながら議論いただく。いただいた意見は「主体別行動指針」や「施策の方向性」への反映を検討。

## (2) 対象（参加者）、開催回数

環境に関心のある方から、環境以外の視点を持った方、子ども、外国からの訪問者（滞在者）まで幅広く意見聴取の対象にするという考えのもと、それぞれの対象に適した方法で開催する。

## ○一般向け開催

- ・「大人」を対象とする。意見の違いがあることを期待し、環境に関心のない方にも参加いただく。（当事者意識を持って考えてもらうきっかけの場とする。）
- ・1回開催（30～50名程度）
- ・KJ法を中心に、上記テーマについてグループワークを行う。（実施イメージは下記参照。）

## ○子ども向け開催

- ・一定期間開催（50名程度）
- ・子ども用の内容を検討（上記の「問い」の表現を易しくした質問で、シール貼りやインタビュー）。

### ○留学生向け開催

- ・外国からの滞在者を代表して、留学生を対象に座談会形式での開催を模索。
- ・初めて京都に来た時の気づきを踏まえた意見から、滞在者の「主体別行動指針」への反映を検討。

### ■一般向け内容の実施イメージ

| 内容      | 時間  | 進行案（150分） ※一般市民（高校生以上 30～50 名程度を想定）                                                                                                                                                                                                                                                         |
|---------|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| オープニング  | 20分 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●挨拶等（5分）</li> <li>●導入（15分）</li> </ul> -市の環境の状況や、環境基本計画の検討状況等について                                                                                                                                                                                     |
| グループワーク | 90分 | <6～8人/グループ×7グループ程度><br>①WSの説明(10分)・グループ内自己紹介(10分)<br>②「主観的指標（案）」※の実感度について自分はどう思うか、なぜそうなのかを述べて共有する(10分)<br>※各グループに主観的指標 1～2 項目を割り当てる。<br>③「主観的指標（案）」に掲げる実感度を改善していくために大切だと思うこと（キーワード）などを付箋で記入し共有する（20分）<br>④それを実現するために、あったらいいなと思う仕組みや、やりたいことなどを付箋に記入し、共有する（30分+10分休憩）<br>※大学生のグループファシリテーターを想定 |
| 共有      | 40分 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで話し合った内容を全体に発表。（入れ替え含め各 5 分×7グループ）</li> <li>・出された要素やキーワードをワードクラウド、グラフィックレコーディング、等でまとめる。</li> </ul>                                                                                                                                              |

### （３）大学生参画

- ・ワークショップ（一般向け開催）のスタッフとして、複数大学から学生の参画を募る。（多様な人の意見に触れ、学んでいただくことを企図する。）
- ・また、スタッフとして参画した大学生からもそうしたワークショップでの気づき・学びを踏まえた意見を聴く（当日のワークショップの内容に加え、自分の感想、将来の展望などを聴取）



#### （参考）令和７年度 市民対話会議（市長参加）

環境基本計画をテーマに実施する予定のため、上記の学生意見聴取を、市民対話会議（市長との対話）として実施する。

### （４）スケジュール（想定）

- ・～６月：参加者、学生の募集
- ・ ７月：ワークショップ開催

市民対話会議については、ワークショップ同日または別日に開催予定